

令和7年度 田原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

人間の尊厳を重んじる教育を基盤に、生きる力を育むことを目指し、未来を切り拓いていける生徒を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

① 自ら学び実力のある生徒

(基礎・基本を確実に習得し、それらを活用する力を身につけるとともに、目標や、自ら学ぶ意欲をもった生徒を育成する)

② 心豊かで思いやりのある生徒

(自信や自己有用感、規範意識、思いやりをもった心豊かな生徒を育成する)

③ 健康でたくましい生徒

(生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力をもった生徒を育成する)

(3) 生徒指標

「よく学び、よく鍛えよ」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- ・学校は、子どもたちにとって、「安心して学べる場所」であること
- ・学校は、教職員にとって、「遣り甲斐を感じる場所」であること
- ・学校は、保護者・地域の方々から、「信頼される場所」であること

上記のような学校を目指し、心のふれ合う豊かな人間関係に支えられた温かみのある学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、生徒の実態と学校や地域の特色を生かした教育課程の編成と実施に努める。
- (2) 学習意欲を高める指導や基礎・基本の確実な定着を図る指導、さらには、個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習の定着・充実を図ることにより、生徒が自ら学ぼうとする意欲の育成に努める。
- (3) 生徒一人一人の共感的理解を基盤とした生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係を核とする 学級集団づくりを通して、豊かな人間性や社会性の育成に努める。
 - ・道徳の時間や心の教育の充実を図り、生徒の内面に根ざした道徳性を育む
 - ・読書活動や生徒が主体的に取り組む体験活動を通して、実践力を高める。
- (4) 家庭や地域との連携を図りながら、健康管理や体力づくりを推進するとともに、食に関する指導の 充実を図り、生徒が将来にわたって心身ともに健康に生活していく指導に努める。
- (5) 発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進し、社会的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。
- (6) 学校内の連携並びに家庭や関係機関との連携を図った特別支援教育を推進し、生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導と長期的な視点に立った支援に努める。
- (7) 学校・家庭・地域社会との連携のもと、共に歩む学校、信頼される学校づくりに努める。
 - ・良き伝統や地域の特性、教職員の創意工夫を生かした特色ある学校づくり
- (8) 「学校における働き方改革」を推進し、業務の効率化や労働時間の適正化を図る。教職員の使命を自覚し、同僚性を高めながら、組織力と専門性の向上を目指す。
- (9) 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、ICT等を効果的に活用しながら、グローバル化や情報化の一層の発展など、急激な時代の変化に向き合い、生き抜くための資質・能力を身につけさせる。
- (10) 田原地域学校園内の連携・強化を図りながら小中一貫教育を推進し、学校園教育ビジョンが掲げる生徒の育成に努める。

【田原地域学校園教育ビジョン】 自立を目指しながら積極的に地域社会と関わる田原っ子の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画等※の示すところに従い、公教育の自覚のもとに全職員の理解と協力に努め、本校の学校教育目標達成のため、教育課程を編成する。
※教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、中学校新学習指導要領、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、県教育振興基本計画 2025、
- (2) 教育課程の編成に当たっては、生徒に生きる力を育むことを目指し、教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力をもつ生徒の育成を行い、学校教育目標を達成するよう留意する。
- (3) 目指す生徒像や育てたい資質・能力を明確にした上で、教科横断的な視点に立って確実に育成するため、教育目標や方針の共通理解に基づく実践に結び付くよう、目標の重点化など、カリキュラム・マネジメントを推進する。
- (4) 道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うことを基本とし、道徳教育充実のため、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに、家庭や地域社会との連携を図るよう留意する。
- (5) 健康(体力・保健・食育・安全)の指導は、学校教育全体を通じて適切に行い、特に体力の向上及び心身の健康の保持増進については、保健体育科の時間はもとより、特別活動などにおいても十分指導できるよう留意する。
- (6) 本校の生徒や地域の実態を適切に把握し、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図り、活力にあふれる学校づくりに努める。
- (7) 地域学校園内で連携を図り、ビジョン達成に向け、小中9年間の一貫した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

「生徒一人一人の主体性を高める指導の充実」

- 自分の力でやり遂げる体験や場の設定により自己肯定感を高める支援の充実
・自信と目標をもって、困難にも立ち向かおうとする指導の推進と強化
・互いに信頼し、認め合う集団づくりの推進と強化

「基礎・基本を確実に習得させ、自ら学ぶ意欲を育てる指導の充実」

- 基礎・基本の確実な習得に向けて粘り強く学ぶ態度の育成
・課題解決する力を高める学習活動と学びを深める支援の充実
・学びに向かう集団づくりの推進と強化
・習熟度別学習等による、きめ細かな指導の充実
○小中連携による家庭学習の習慣化の推進と強化

「未来を生き抜く力を養う指導の強化」

- ・デジタル・シティズンシップ(情報モラル)を育む指導の推進
○郷土への愛情を育む学習の推進
・英語教育・SDGs教育の充実

「学校における働き方改革の推進」

- ・業務の効率化・簡略化や労働時間の適正化
・採点ソフトや校務支援ソフト等の有効活用

(2) 学習指導

「基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力を育成するとともに、目標をもち、自ら学ぶ意欲を育む」

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
○既習事項を生かすめあての提示と振り返りを文章で書かせる活動の計画的な実施
・教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
・宮・未来キャリア教育の充実

(3) 児童生徒指導

「心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりなど、豊かな心を育む」

- 不登校を生まない、生徒が安心して過ごせる学級経営の充実
・他者との関わり方を学ぶ教育活動の推進
・体験活動等による宮っ子心の教育の推進
○いじめを生まない指導・支援の充実
・思いやりや規範意識の醸成を図る道徳科の授業や学校行事等の実施
・インターネットに起因するトラブルの未然防止に係る取組の充実

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

「生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する」

- ・元気アップ教育の推進

○運動に親しみ、体力を高めようとする資質・能力の育成

- ・早期治療や肥満防止など、健康を管理する能力の育成

- ・望ましい食習慣の形成及び食に対する感謝の念の育成

- ・登下校及び日常生活における危険予測・回避能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止 を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	・周囲と話し合う活動を取り入れ、協同的学習時間を確保し、自分の意見や考えを再構築させるなど、深い学びの実現に向けた授業改善を行う。 ・「主体的に取り組む態度」の資質・能力の育成を意識した授業展開を工夫し、学びに向かう力の向上を図る。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 0.9% 低く 84.9% であり、数値指標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・自分の考えをもち、対話による学び合いを行ったり、協働的に課題に取り組んだりする場を多く取り入れ、深い学びの実現に向けた授業改善を図る。 ・興味・関心を起点に「自ら課題を探求し、振り返り、次につなげる」という学び方を身に付けさせる。
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	・道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践して行く。 ・朝の会や帰りの会等で、生徒の善行を賞賛する機会を増やしていく。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 1.5% 低く 89.9% であり、数値指標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・道徳・学級活動等の授業を工夫したり、朝の会や帰りの会等で生徒の善行を称賛したりするなど、互いのよさを認め合う活動を多く取り入れる。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%	・すべての学校教育の中で、発達段階に応じたキャリア教育を推進し、今後の社会を積極的に形成することができる力を育成する。 ・体験活動が生徒一人一人のキャリア形成の一助になるよう、それぞれの目標や課題に沿った活動になるよう支援指導を行う。 ・教職員が「キャリア教育の目標」を共有し、重点化しながら、生徒の社会形成力の育成を強化する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 6.4% 高く 79.9% であったが、数値指標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・様々な教育活動の中で試行錯誤する場を取り入れ、前向きに挑戦したり、最後までやり抜いたりすることの大切さを実感させる。

1-（3） 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	【健康増進に関して】 <ul style="list-style-type: none"> ・昼休み、校庭において身体を動かす呼びかけをする。 ・放課後、積極的に部活動に参加するよう促す。 ・健康教育の実施（健康に関する意識を持たせる） 【食育に関して】 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科、学級活動と連携した栄養指導の実施 ・給食委員会によるマナー指導 ・「お弁当の日」を活用した栄養指導 ・小・中連携した給食指導の実践 【安全教育に関して】 <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練等に課題意識をもって積極的に参加させる。 ・日頃から、危険箇所について意識させ、身を守ることを第一に、危機管理能力を育成する。 	【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 2.5% 高く 88.3% であったが、数値指標に達しなかった。 【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が健康に関心をもち、健康的な生活習慣を身につけることができるよう計画的な指導を図る。 ・避難訓練や交通安全教室等を通して、災害や事故が起きた時に自己判断ができるよう「危機を予測し回避する力」を身に付けさせる。
1-（4） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科 道徳の時間を通して自分自身を見つめる機会をもたせる。 ・学校生活全般を通して、褒める・認める機会を増やし、生徒の自尊感情を育てる。 ・互いに認め合いながら協働活動を行える活動を多く取り入れる。 	【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 0.1% 低く 83.2% であり、数値指標に達しなかった。 【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般を通して、「努力を認め、達成状況を褒めて次に向けて励ます」機会を増やし、生徒の自尊感情を育てる。
2-（1） グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 75%	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の授業や総合的な学習の時間などの言語活動の充実を図る指導により、コミュニケーション能力を高める。 ・修学旅行や社会体験学習などの校外活動等の機会を活かして、積極的に外国人とのコミュニケーションを図らせる。 	【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度と同様に 65.4% であり、数値指標に達しなかった。 【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の授業の中で、コミュニケーション能力の育成強化のプランを立てる。 ・修学旅行で、積極的に外国人とのコミュニケーションを図らせる。
	A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	<ul style="list-style-type: none"> ・「宇都宮学」の時間を通して、探究的な学習を行うことで郷土への愛情を育む。 ・総合的な学習の時間で調べたことを文化祭で発表し、広く周知させる。 ・社会科の教科指導の中で、地理や歴史において宇都宮市と比較させ、理解を深める機会を増やす。 ・食育及び委員会活動における地産地消や郷土の食文化の紹介等の取組を通して、宇都宮市の良さに触れる機会を増やす。 	【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 4.0% 高く 85.5% であり、数値指標に達した。 【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・「宇都宮学」の時間を通して、探究的な学習を行うことで、宇都宮についての知識を深め、郷土への愛情を育む。 ・食育及び委員会活動における地産地消や郷土の食文化の紹介等の取組を通して、宇都宮市の良さに触れる機会を増やす。

2-(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	<p>A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 75%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動や NIE 活動の積極的な推進で、図書資料等を学習に活用する力を高める。 ・各授業において、生徒が積極的に ICT を活用するような授業内容の検討を行う。 ・教師が積極的に ICT 活用に対する研修を重ね、パソコン教室及び個人用 PC 端末の活用により授業力向上を図る。 	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 1.5% 低く 67.6% であり、数値指標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業の中で、一人一台端末や図書資料等を活用し、自分の考えをまとめる力を育成する。 ・教師が積極的に ICT 活用の研修を重ね、各授業において、ねらいを達成するための手段として効果的に活用できるようにする。
2-(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	<p>A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルやゴミの分別等に積極的に協力させ、SDGs への意識を高める。 ・各教科指導の中で、SDGs(持続可能な社会)についての関連等に触れると共に、実現に向けた工夫について考える機会を増やす。 ・教職員に SDGs に関連した教材や取組を紹介するなど、情報共有を行う。 	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 0.7% 低く 76.5% であり、数値指標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科指導の中で、SDGs(持続可能な社会)についての関連等に触れ、実現に向けた工夫について考える機会を増やす。 ・リサイクルやゴミの分別等に積極的に協力させ、SDGs への意識を高める。
3-(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	<p>A 10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 95%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、生徒一人一人の課題を全職員で共有しながら、適切な支援を行う。 ・教育相談部会や校内特別支援委員会などを活用し、特別な支援を必要とする生徒やその特性への理解を深める取組を行う。 ・市教育センター等との連携を図りながら、実態に応じた適切な指導の情報を得たり、指導を仰いだりし、教職員の指導力を高める。 	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は、昨年度と同様に 100% であり、数値指標に達した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談部会や校内支援委員会などを活用し、特別な支援を必要とする生徒やその特性への理解を深め、個々の状況に応じた支援を行う。 ・市教育センター等との連携を図りながら、実態に応じた適切な指導の情報を得たり、校内研修等を行ったりするなど、教職員の指導力を高める。
3-(2) いじめ・不 登校対策の 充実	<p>A 11 教職員は、いじめが許されない行為であることを見守っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践していく。 ・「いじめ防止アンケート」等の教育相談機能により、防止・早期発見に努めると同時に、いじめの根絶をめざし、組織として的確な対応を行う。 ・地域や家庭との連携と啓発を図る。 	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 1.9% 高く 93.9% であったが、数値指標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを定期的に実施し、いじめ防止・早期発見に努めるとともに、いじめの根絶を目指し、組織的で的確な対応を行う。 ・誰もが安心して学校生活が送れるよう、互いに認め合い、支え合い、高め合う集団づくりを推進する。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】教職員の肯定的回答 95%	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳・学級活動等の授業を工夫し、相互理解と互いに高め合う集団づくりを実践して行く。 ・「Q Uアンケート」等のアンケート調査結果や毎日の記録指導を通して、生徒の一人一人の課題の把握や心に寄り添う指導を進める。 ・生徒一人一人の課題の把握や心に寄り添う指導の充実を図る。 	B	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は昨年度同様に100%であり、数値指標に達した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な生徒の観察を強化し、居心地のよい学級、学校づくりに努める。 ・生徒一人一人の心に寄り添う指導を強化する。
3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】生徒の肯定的回答 95%	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色ある取組の一つであるG C R活動で、強化週間を計画的に実施したり、委員会活動の内容の見直しをしたりしながら、生徒がより自主的・主体的に取り組める活動を多く取り入れ、自己有用感を育む。 ・学校行事を通して、生徒同士が協働して行事を企画運営することで自己理解や他者理解への興味・関心を高めるとともに、豊かで心穏やかな心情を育む。 	B	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 2.9% 高く 96.1% であり、数値指標に達した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の話を親身になって聞き、安心して学校生活を送れる雰囲気を醸成する。 ・生徒会活動や学校行事を通して、生徒が協働して企画運営することで、自己理解や他者理解への興味・関心を高めるとともに、豊かで心穏やかな心情を育む。
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】生徒の肯定的回答 95%	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、「めあて」を提示し、記述による「振り返り」を必ず行うことで、学習内容を理解させる。 ・全教職員により、計画的に研究授業・研究協議を実施し、分かる授業を展開するなど、指導力の向上に努める。 ・タブレット活用による授業の導入や授業内容などの工夫を図る。 	B	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 4.3% 高く 94.4% であったが、数値指標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、「めあて」を提示し、記述による「振り返り」を必ず行うことで、学習内容を理解させる。 ・一人一授業を公開し、指導力向上のために「生徒がどこでつまずいたか」「どの発問で思考が動いたか」という生徒の事実に注目した研究協議を行う。
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】教職員の肯定的回答 95%	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標及び学校経営の方針を全職員が意識し、全教育活動でそれが生かせるように業務を進める。 ・各部会を核に、関係職員が情報を共有しながら業務に取り組んでいく。 ・教育相談関係では、S C や校内支援センター支援員等の専門的な見解を活かし連携を図る。 	B	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は昨年度より 8.7% 低く 91.3% であり、数値指標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標及び学校経営の方針を全職員が意識し、情報を共有しながらチームとして組織的に業務に取り組む。
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】教職員の肯定的回答 85%	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人が勤務時間の管理を行い、現状を数値で確認する。 ・指導のねらいを常に意識しながら、準備等の分担や精選を行うなど、業務の効率化に励む。 	B	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は昨年度より 7.9% 低く 82.6% であり、数値指標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の優先順位を明確にするなど、見通しをもって職務を遂行する。 ・採点ソフトや校務支援ソフト等の有効活用を推進する。

5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 田原地域学校園において、運営会議を定期的に開き、小・中の連携を図る。 あいさつ運動や冒険活動教室の共同実施、乗り入れ授業、中学校訪問等、小・中合同で実施する行事の一層の充実を図り、生徒の意識を高める。 児童生徒の直接交流の機会を創出する。 ※陸上大会、水泳合同練習等 	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 3.1% 高く 87.7% であったが、数値指標に達しなかった。</p> <p>B 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動の共同実施、乗り入れ授業、中学校訪問等、小・中合同で実施する行事の一層の充実を図り、生徒の意識を高める。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%</p>	<ul style="list-style-type: none"> PTAや地域協議会と連携し、学校教育活動を通して、交流を深め、支援・協力を得る。 宇都宮オープンスクールの取組の充実を図る。 学校園内各地域協議会との連携を図り、積極的にボランティア活動や行事への参加・協力をする。 	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は昨年度より 7.4% 高く 92.3% であり、数値指標に達した。</p> <p>B 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> PTAや地域協議会と連携し、様々な教育活動を通して地域との交流を深め、積極的に地域行事のボランティア等に生徒が参加する機会を大切にする。
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校における施設・用具等の整理整頓及び計画的な修繕、委員会を中心としたGCR活動のC(清掃)に力を入れる。 PTAや地域協議会の協力のもと、花壇や学校農園の充実を図る。 学校施設開放や避難所開設時の環境づくりの推進を図る。 	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は昨年度より 3.7% 高く 87.8% であり、数値指標に達した。</p> <p>B 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校における施設・用具等の整理整頓及び計画的な修繕、生徒会を中心としたGCR活動のC(清掃)に力を入れる。 PTAや地域協議会の協力のもと、花壇や学校農園の充実を図る。
6-(2) 学校のデジタル化推進	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができるいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の点検を定期的に行い、問題の早期発見に努める。 モバイルルータを活用し、インターネット接続の不具合に対応できる環境を整える。 毎日の充電を呼び掛けていく。 	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は昨年度より 14.7% 高く 95.7% であり、数値指標に達した。</p> <p>B 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末の効果的な活用法についての研究を進める。 ICT機器の点検を定期的に行い、インターネット接続の不具合に対応できる環境を整える。 生徒への適切な使用の啓発を継続する。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%</p>	<ul style="list-style-type: none"> GCR活動のG:(あいさつ)を充実させるため、生徒会を中心とした取組の充実を図る。 校内あいさつ運動の推進 地域学校園内のあいさつ運動の推進 授業や学校生活の中で、その場に応じたあいさつの習慣化を図る。 生徒会・委員会活動での啓発を推進し、礼儀正しく、場に応じた言動がとれる生徒を育成していく。 	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 3.9% 低く 90.5% であり、数値指標に達しなかった。</p> <p>B 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内や地域学校園内でのあいさつ運動の推進、また、授業や学校生活の中で、その場に応じたあいさつの奨励を行い、GCR活動のG(あいさつ)を充実させる。

	<p>B 2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教職員は、生徒に対して、時間や学校のきまりを守って生活することの大切さを理解させる。 言語環境を含め、安全・安心な環境整備に努める。 	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 4.3% 低く 88.3%であり、数値指標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活の中で、時間やきまりを守って生活することの大切さを理解させ、基本的生活習慣が身に付くよう指導する。 言語環境を含め、安全・安心な環境整備に努め、生徒が、決まりやマナーを守って生活できる環境づくりに努める。
	<p>B 3 生徒は、主体的に家庭学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜日を「家庭学習の日」とし部活動なしで一斉下校させる。 生徒が主体的に学習に取り組めるよう、課題の出し方を工夫する。 1年次から学習方法をより丁寧に指導・助言し、学年に応じた自主学習を推奨する。 保護者と連携し家庭学習の習慣を育てる。 	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 4.5% 高く 69.3%であったが、数値指標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次から学習方法をより丁寧に指導・助言し、学年に応じた自主学習を推奨するなど、課題の出し方を工夫する。 保護者と連携し、粘り強く家庭学習の習慣を身に付ける指導を継続する。
	<p>B 4 生徒は、自ら進んであいさつすることを意識して生活している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> G C R活動のG（あいさつ）の一層の充実を図る。 生徒会・委員会活動で、生徒が自主的にあいさつできるよう啓発活動を行う。 ビデオやT Vを利用し、啓発の仕方を工夫する。 G C R活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直し・改善を図る。 	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 4.3% 低く 87.7%であり、数値指標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> G C R活動のG（あいさつ）の一層の充実を図るために、生徒会や委員会活動で、生徒が自主的にあいさつできるよう啓発活動を行う。 G C R活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直しや改善を図る。
	<p>B 5 生徒は、清掃活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%</p>	<ul style="list-style-type: none"> G C R活動のC（清掃）の一層の充実を図る。 全教職員による率先垂範 時間で始め、時間で終わる指導の徹底 生徒会・委員会活動での啓発活動を行う。 無言清掃、清掃コンクール等の実施 生徒会朝会での啓発活動の実施 清掃の仕方V T Rによる啓発 G C R強化週間で、特に清掃活動に対する生徒の意識を高める。 G C R活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直し・改善を図る。 	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 2.8% 高く 90.5%であったが、数値指標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> G C R活動のC（清掃）の一層の充実を図るために、生徒会環境整備委員会での啓発活動や、全教職員による率先垂範など、昨年同様に、工夫した活動を取り入れる。 G C R活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直しや改善を図る。

	B 6 生徒は、朝の読書の時間以外にも読書に親しんでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%	<ul style="list-style-type: none"> ・ G C R活動のR(読書)の一層の充実を図る。 朝の読書（10分間）実施 担当教員(担任)による率先垂範 ・ 生徒会・委員会活動での啓発活動を行う。 多読コンクール等の実施 給食委員会とのコラボ企画等を通して啓発活動の実施 図書室の配架や学級文庫の充実 ・ G C R活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直し・改善を図る。 ・ 生徒会活動の充実 ・ 図書館読書の日を毎月一回実施する。 ・ 学校図書館司書と連携した取組 ・ 日常的な読書への啓発活動の充実 	B	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は昨年度より 3.2% 低く 48.0% であり、数値指標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読書に親しむために、学校図書館司書との連携を図り、また、生徒会図書委員による啓発活動を積極的に行なうなど、G C R活動のR(読書)の一層の充実を図る。 ・ G C R活動推進委員会を定期的に開催し、活動の見直しや改善を図る。
--	---	---	---	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 宇都宮市の共通項目となる 22 項目 (A 1 ~ A20, B1, B2) において、調査した全対象者（教職員・保護者・地域住民・生徒）から回答を得た 63 項目のうち、肯定的回答の割合が 80% を上回った項目は、55 項目（全体の 87.3%）であった。本校の教育活動について概ね肯定的に受け止められている。

【学校運営】

- ・ A18, A19 は数値指標を上回った。また、昨年より数値を上回った項目は A13, A17, A18, A19, B4, B5 であった。
- ・ A13（一人一人が大切にされ活気があり明るくいきいきとした雰囲気である）については、生徒は 96.1% で数値指標を 1.1 ポイント、昨年度よりも 2.9 ポイント、市平均より 0.4 ポイント上回った。また、教職員は 100%、保護者は 81.5% と肯定的回答率が高く、学校行事や生徒会活動等、生徒が主体的に活動する場を多く取り入れ、生徒が充実感や達成感を味わうことができた結果と考えられる。

○ A17（「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている）については、数値指標には届かなかったが、生徒は 87.7% で昨年度よりも 3.1 ポイント上回った。また、教職員は 91.3%、保護者は 91.0%、そして地域住民は 100% と肯定的回答が高く、小中が関わる地域協議会の活動も大変盛んで、生徒もボランティア等で活躍することができたことが結果となって現れた。

- ・ A18（学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている）について、保護者は 92.3% で数値指標を 7.3 ポイント上回った。生徒は 83.2%、教職員は 95.7%、地域住民は 100% と、いずれも昨年よりも上回っており、家庭や地域との連携を密に取りながら、教育活動を充実させてきた結果と考えられる。
- ・ A9（生徒は、持続可能な社会について関心を持っている）については、教職員は 82.6% と高かったが、生徒は 76.5% で数値指標を下回り、昨年よりも 0.7 ポイント低かった。今後は、各教科等様々な場面で、SDGs についての教材や取組を紹介し、生徒に考えさせてていきたい。

【生徒支援】

- ・ A10, A12 は数値指標を上回った。また、昨年より数値を上回った項目は A3, A11, A12 であった。
- ・ A12（教職員は不登校を生まない学級経営を行っている）については、教職員は 100% で数値指標を 5.0 ポイント上回った。生徒は 96.6% で昨年度よりも 2.8 ポイント、市平均よりも 1.1 ポイント上回った。また、保護者は 82.7% で昨年よりも 5.6 ポイント上回っており、個別に応じて柔軟な対応や支援を継続して取り組んできた結果と考えられる。
- ・ A11（教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している）については、教職員は 100% であったが、生徒は 93.9%、保護者は 73.2%、地域住民は 84.2% で昨年を上回った。しかし、市の平均より 2 ポイント下回っていることから、生徒主体のいじめ根絶週間での取組や、いじめ根絶に関する道徳・学級活動の授業の充実を行い、普段の生活の中で「いじめは絶対に許されない」ことを生徒に実感させてていきたい。

【学習指導】

- ・ A7, A20 は数値指標を上回った。また、昨年より数値を上回った項目は A7, A14, B3 であった。
- ・ A1（他者と協力したり必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる）については、数値指標に 0.1 ポイント届かなかったが、生徒は 84.9%、教職員は 91.3%、保護者は 80.2% と肯定的回答が高かった。学習意欲が高い生徒が多く、熱心に授業に取り組んでいることが数値に現れたと考えられる。
- ・ A14（教職員はわかる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている）については、数値指標に 0.6 ポイ

ント届かなかったが、生徒は 94.4%、教職員は 100%と肯定的回答が高かった。保護者については 74.6%であったが、昨年よりも 3.2 ポイント上回っている。今後も、授業のねらいを明確に提示し、生徒自ら考えをまとめ、周りと話し合い、内容を深め、振り返りを行うといった授業展開を教職員が意識して実践していきたい。

・ A20（コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業を行うための準備ができる）については、教職員は 95.7%で数値指標を 10.7 ポイント上回り、昨年よりも 14.7 ポイント上回った。教職員の ICT 活用に関する意識が高まり、多くの場面でタブレット等を活用した授業を展開していた結果と考えられる。

【健康体力・安全】

・ A19 は数値指標を上回った。また、昨年よりも数値が上回った項目は A4 であった。

・ A4（生徒は、健康や安全に気を付けて生活している）について、生徒は 88.3%と数値指標を 1.7 ポイント下回っているが 80%を超えていている。また、教職員は 95.7%，保護者は 88.8%と昨年よりも上回り、結果として良好と思われる。引き続き、健康や食の大切さについて指導していきたい。

・ A19（学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている）については、保護者は 92.3%で数値指標を上回った。地域住民は 100%，教職員は 95.7%で肯定的回答が高かった。継続して校舎内外の安全点検等を確実に行い、安全に配慮した環境づくりに努めていきたい。

7 学校関係者評価

- ・学級担任の先生には勉強だけでなく日頃の小さな出来事や悩みにも寄り添っていただいている。毎日安心して学校に送り出すことができることをとても感謝している。
- ・おとなしい生徒が多いが、一生懸命に諸活動に取り組んでいる。
- ・スポーツ等で、ここぞというときに力を発揮し、素晴らしい成績を残し、精神力が強い生徒がいる。
- ・各教科にて生徒間のレベル差があるように感じるので、習熟度別等の細かい指導を希望する。
- ・校則を見直し、改定が必要だと思われるものは改定していってほしい。
- ・教科書の持ち帰りに関して、荷物が重すぎるので一人一台端末をもう少し活用してはいかがか。
- ・生徒の問題等、学校の中だけでなく、保護者にも伝えて解決していってほしい。
- ・先生方の共通理解のもとで指導し、指導に偏りがないようにお願いしたい。
- ・いじめ根絶やいじめ防止などの対策を、引き続き行ってほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・全体アンケートの結果から、概ね本校の教育活動に対して肯定的に受け止められている。次年度へ向けて、肯定的回答率が高かった取組については引き続き行い、課題が残る取組に関しては具体策の見直しや工夫を行っていきたい。

【次年度へ向けた主な取組】

・各授業において、生徒自身の考えを整理し、対話活動により考え方を深め、振り返りを行い、授業のねらいを達成するような授業展開を引き続き実施していく。主体的・対話的・深い学びの実現に向けた指導の充実を図り、学習意欲をより高めるとともに、生徒の学力向上につなげていく。

○B3（生徒は、主体的に家庭学習に取り組んでいる）の項目が 70%を下回っていることから、小中連携して家庭学習の効果的な取組等について話し合い、計画的な家庭学習ができるよう支援し、自ら勉強する姿勢を身に付けさせていく。

・引き続き、生徒と教職員のより良い人間関係を醸成し、居心地のよい学級、学校づくりに努める。

・生徒一人一人の課題の把握や心に寄り添う指導をさらに強化し、生徒の可能性を引き出し伸ばすことができる教師力の向上に努める。

・問題行動の未然防止、早期発見のため、教育支援・教育相談部会や、各学年との連携を強化する。また、全教職員への情報共有、共通理解を速やかに行い、組織として対応していく。

○地域学校園の児童生徒はあいさつが定着してきている状況なので、小中連携したあいさつ運動を継続するとともに、地域協議会と協力し、笑顔で相手の目を見て心のこもったあいさつができるよう指導していく。

・保護者や地域と連携を密にし、地域全体で生徒たちの成長を支え、よりよい教育を実現するような開かれた学校づくりに努める。